

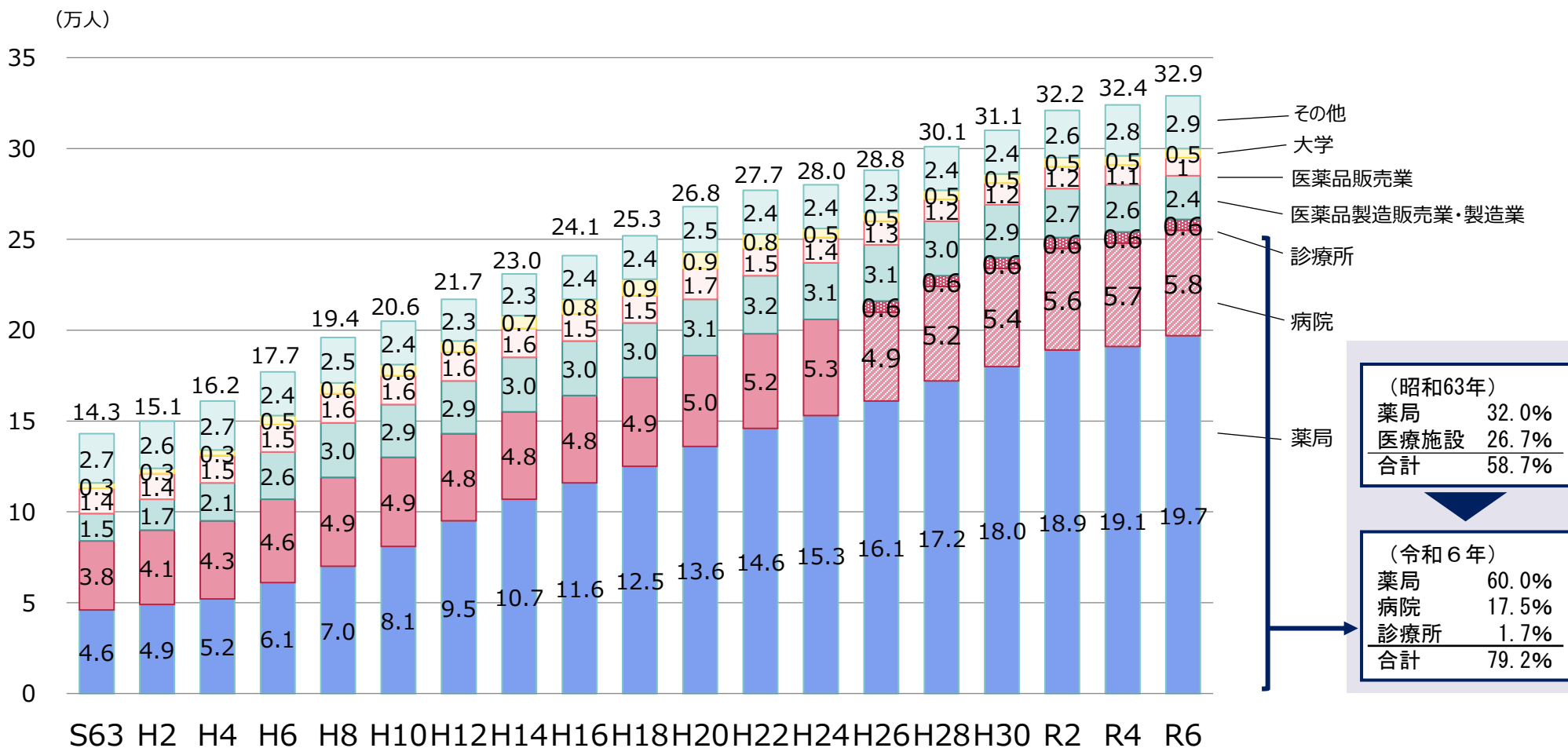
## 資料 2 薬剤師のキャリアについて

厚生労働省医薬局総務課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

# 薬剤師数（業態別）の推移

- 薬剤師の総数は増加しており、**多様なキャリア**がある中、薬局の薬剤師の割合が年々高くなっている反面、研究・創薬に資する大学・医薬品製造販売業・製造業についてはピークアウトし減少局面に移行している。



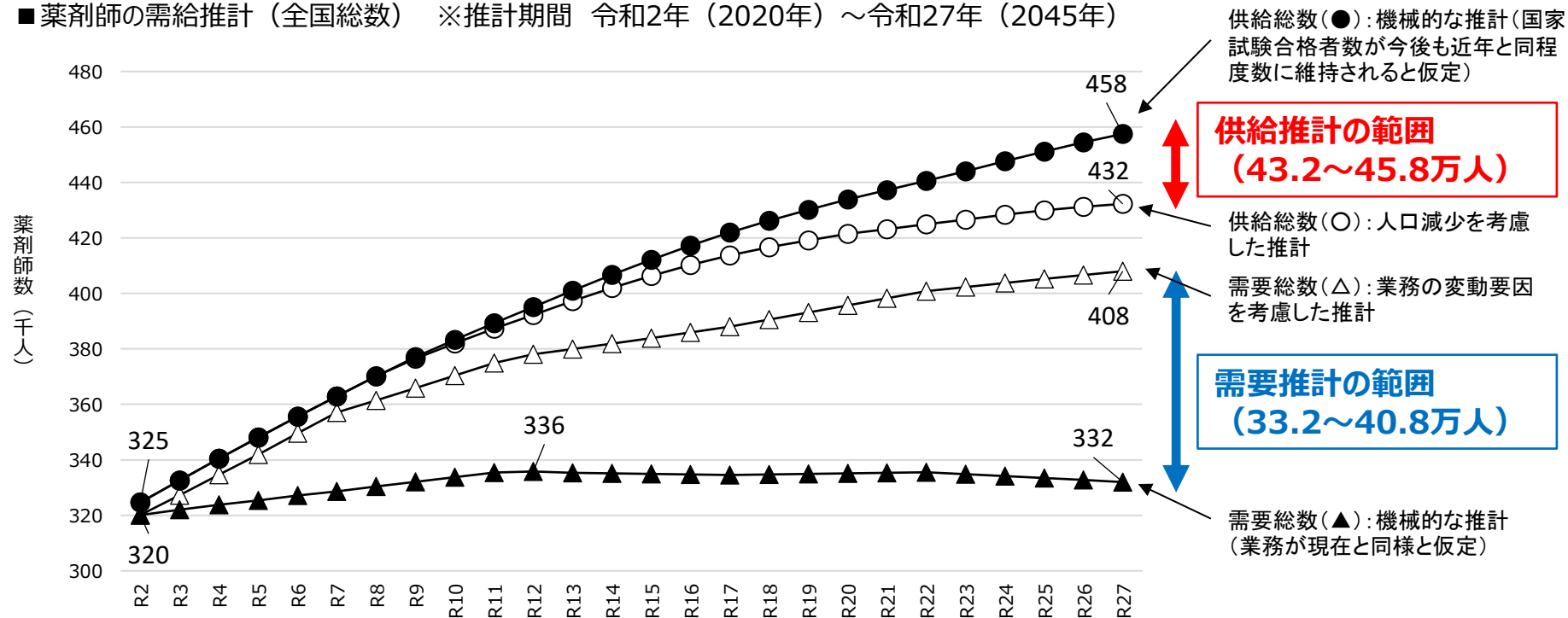
出典：医師、歯科医師、薬剤師統計

※ 平成26年より病院・診療所それぞれの従事者数も調査

# 薬剤師の需給推計（令和2年度時点） ※今年度再算出予定

- 薬剤師の総数としては、概ね今後10年間は、需要と供給は同程度で推移するが、将来的には、需要が業務充実により増加すると仮定したとしても、供給が需要を上回り、薬剤師が過剰になる。薬剤師業務の充実と資質向上に向けた取組が行われない場合は需要が減少し、供給との差が一層広がることになると考えられる。
- 本需給推計は、変動要因の推移をもとに仮定条件をおいて推計したものであり、**現時点では地域偏在等により、特に病院を中心として薬剤師が充足しておらず、不足感が生じている。**
- 今後も継続的に需給推計を行い、地域偏在等への課題への対応も含めた検討に活用すべき。

■ 薬剤師の需給推計（全国総数） ※推計期間 令和2年（2020年）～令和27年（2045年）



## <供給推計>

- ・ 機械的な推計(●): 現在の薬剤師数の将来推計、及び今後新たになに薬剤師となる人数の推計(国家試験合格者数が今後も近年と同程度数に維持されると仮定)をもとに供給総数を推定(推定年における年齢別死亡率も考慮)
- ・ 人口減少を考慮した推計(○): 今後の大学進学予定者数の減少予測を踏まえ、国家試験合格者が同程度の割合で減少すると仮定して供給総数を推計

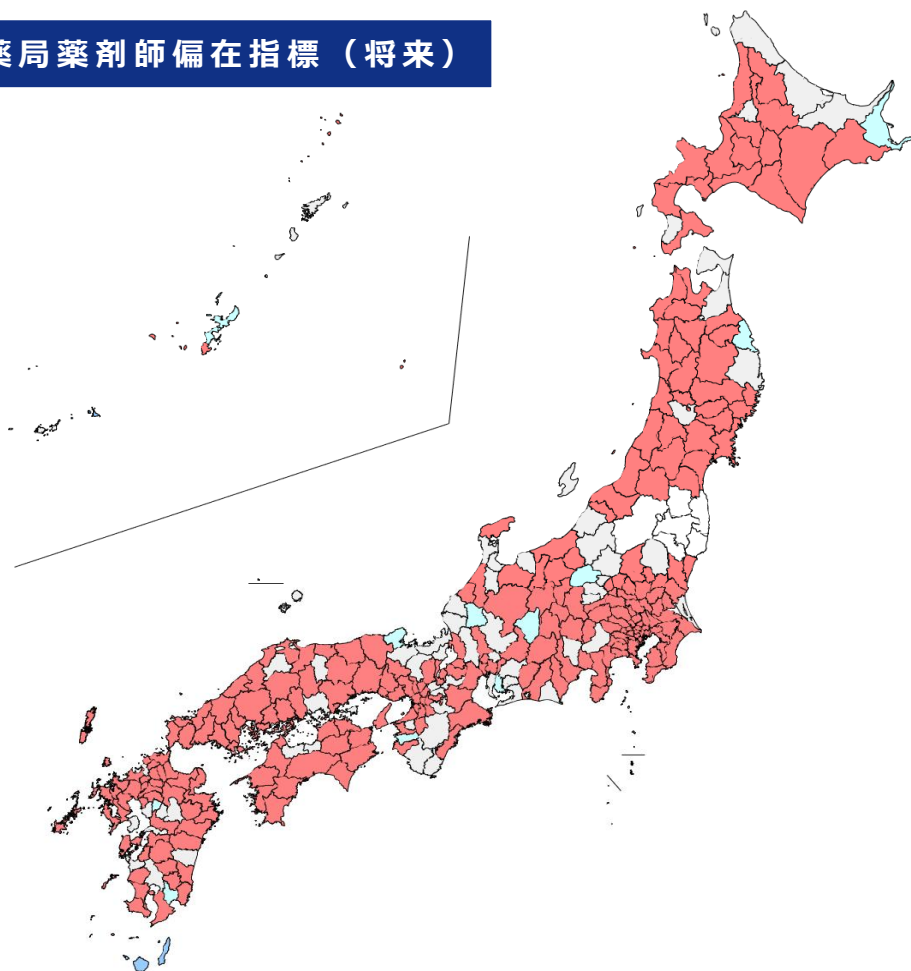
## <需要推計>

- ・ 機械的な推計(▲): 薬局業務(処方箋あたりの業務量)、医療機関業務(病床／外来患者の院内処方あたり業務量)及びその他の施設に従事する薬剤師の業務が、現在と同程度で推移する前提で推計
- ・ 変動要因を考慮した推計(△): 薬局業務と医療機関業務が充実すると仮定した場合の推計

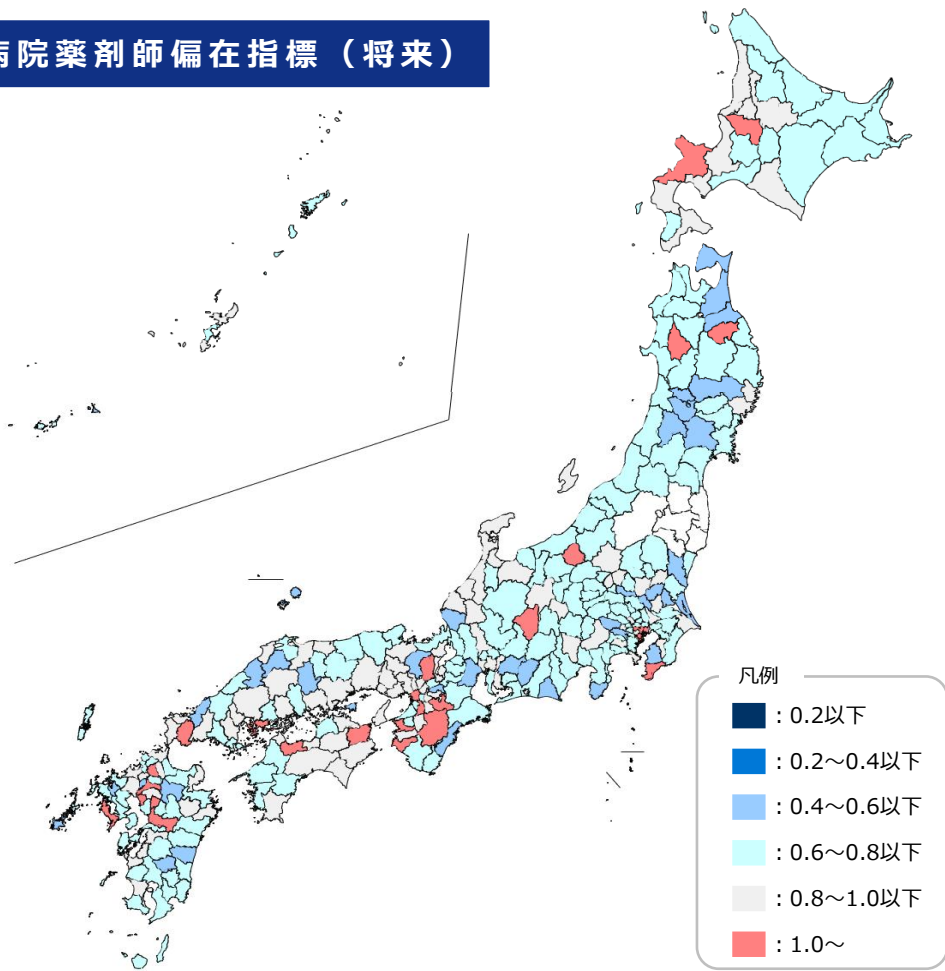
# 薬剤師偏在指標（将来）

- 二次医療圏335医療圏のうち、薬剤師偏在指標1.0を超える医療圏は、薬局250医療圏、病院29医療圏であった。
- 都道府県間に加え、同一都道府県においても、偏在指標に差があり、薬剤師の従事先には、業態、地域偏在がある。

薬局薬剤師偏在指標（将来）



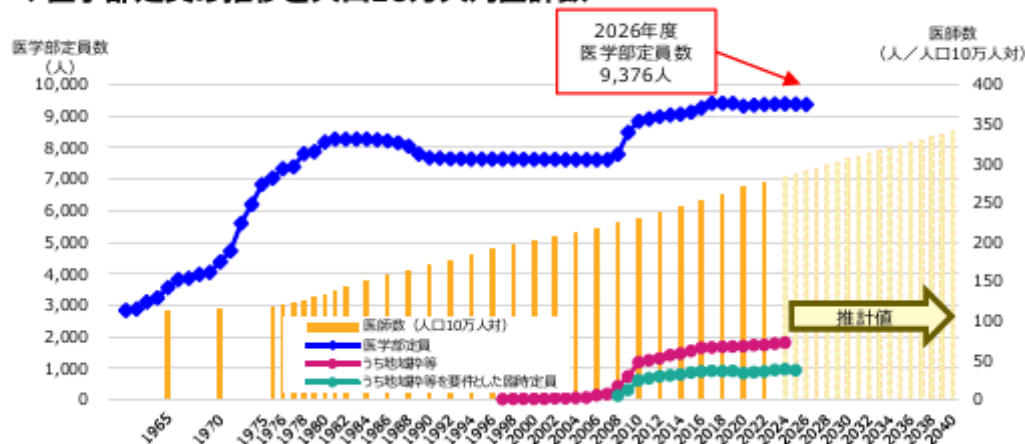
病院薬剤師偏在指標（将来）



※福島県の二次医療圏別の値については、人口推計がないため、将来の指標を算定していない

- 最新の医師需給推計によれば、2029年～2032年の間で需給が均衡することが見込まれており、医学部6年制を踏まえると、**医師数が過剰となることは既に確定的**であり、**医学部定員を計画的に削減していくことが必要**。
- 歯科医師・薬剤師についても、2012年以降、国家試験の合格者数が平均で定員数の8割程度となっており、**既に定員数が過剰**。そもそも、今後の人口減少や医療提供の効率化を踏まえれば、**歯科医師・薬剤師を増加させる必要性は乏しい**とも考えられる。
- 学問分野間の人材配分の適正化の観点からも、**大胆な定員削減に踏み切るべき**。

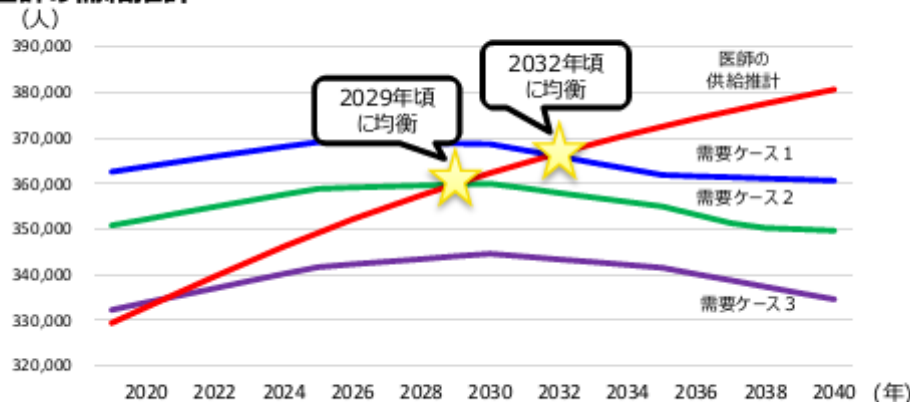
## ◆医学部定員の推移と人口10万人対医師数



※ 地域枠等：地域医療に従事する医師を養成することを主たる目的とした学生を選抜する枠

(注) 2024年度以降の人口10万人対医師数は、「医師の需給推計」（厚生労働省）における各年の対前年伸び率及び総務省「人口推計」を基に、財務省において2022年度までの実績を延伸する形で推計。

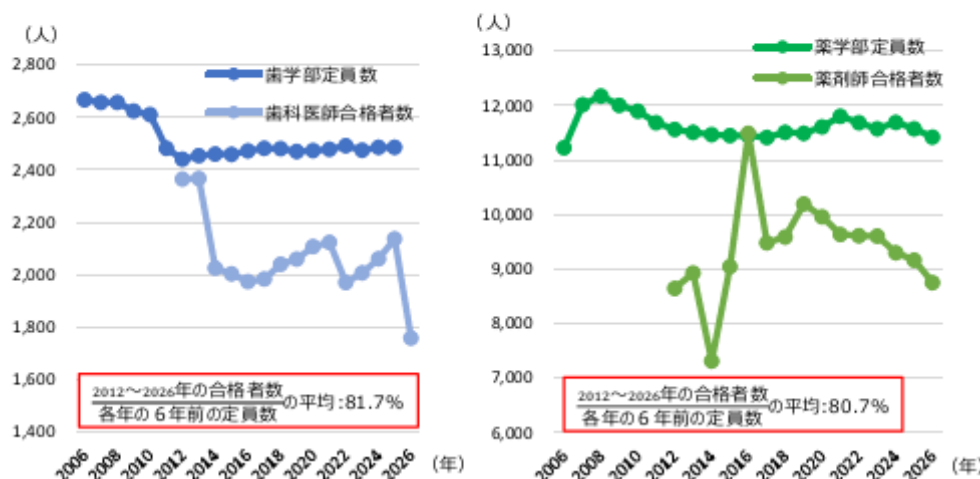
## ◆医師の需給推計



(出所) 厚生労働省「第9回医師養成過程を通じた医師の偏在対策等に関する検討会」（2025年1月21日）資料を一部加工

(注) 2020年の医学部定員数を前提とした推計。

## ◆歯学部定員及び歯科医師合格者数、薬学部定員及び薬剤師合格者数

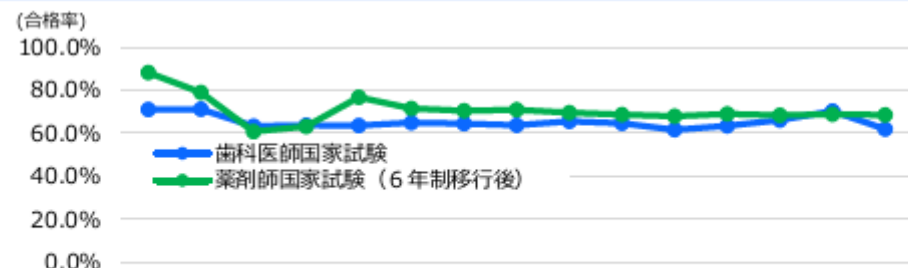


(出所) 合格者数は厚生労働省の各試験の合格発表資料。定員は文部科学省「歯学部歯学科の入学定員」「薬学部における修学状況等」

(注) 歯学部・薬学部の6年制を踏まえ、定員数は合格者数の6年前から示している。なお、2012年から2016年までの薬剤師試験合格者数のばらつきは、2006年の6年制移行後に薬学部に入学者が受験者となりはじめた最初期であることが影響していると考えられる。

## ◆歯科医師・薬剤師の国家試験合格率

- ✓ 過去の不合格者等もあり、上記入学時の定員に対する合格者の割合よりも、実際の国家試験の合格率は低い状況となっている。



(出所) 厚生労働省の各試験の合格発表資料より、合格率を引用。

# 日本成長戦略 ～創薬・先端医療～（令和8年7月21日閣議決定）

## （11）創薬・先端医療

創薬・先端医療分野は、国民の健康に直結し、経済活動を支えるものであり、健康医療安全保障の構築に向け、医薬品産業を成長・基幹産業と位置付け、官民が一体となって取組を進める。あわせて、医療機器の研究開発エコシステムを確立する。また、健康寿命の延伸や社会保障の担い手の確保につながる「攻めの予防医療」の徹底に取り組んでいく。

### ①ファーストインクラス<sup>38</sup>製品・ベストインクラス<sup>39</sup>製品（医薬品、再生医療等製品）

#### i）重要性

世界の医薬品市場は2022年に約200兆円の規模であり、ファーストインクラス製品・ベストインクラス製品を含む特許品の世界市場は年平均9.6%で拡大している。同製品の供給確保を通じ、治療法が未確立の疾病にも対処することは、国民の健康の維持や健康医療安全保障の実現に直結する。

#### ii）勝ち筋・方向性

基礎研究力の強みや近年の治験への取組をいかし、実用化を担う人材の育成や、スタートアップ・国際共同治験における資金・制度面の課題解消を図り、創薬シーズ創出から実用化まで一気通貫で進める環境を整備し、「世界直行型」の開発を実現する。

#### iii）主な目標

・我が国の医薬品市場の魅力度向上に向け、我が国の特許品の市場規模について、特許品の世界の成長に比肩する成長を目指す。

・我が国企業の特許品市場規模について、世界市場と同水準の成長の実現を目指す。

#### iv）主な施策

・実用化を担う人材の育成や流動化を支援する。カーブアウト<sup>40</sup>シーズの活用や投資の呼び込み、製薬企業とのM&A支援など、スタートアップ支援を強化する。

・免疫・再生医療等の基礎研究力強化、国際水準の治験実施体制整備、AMED<sup>41</sup>による研究開発資金の用途改善・大学と製薬企業との橋渡し・実用化推進、対照群のデータ蓄積を含む難病・希少疾患領域の支援、データ連携基盤整備を含めたデータ利活用やA Iによる研究開発プロセスの高度化・効率化、新薬の国際展開<sup>42</sup>を図る。

・患者アクセスの改善に向け革新的新薬のイノベーションの更なる評価を検討する。

<sup>38</sup> 全く新しい作用で世界で初めて承認されるもの。 <sup>39</sup> 同じ作用の製品の中で有用性が最も優れるもの。

<sup>40</sup> 製薬企業等の創薬シーズを切り分け、外部資本の導入等により新会社等で実用化する取組。 <sup>41</sup> 日本医療研究開発機構。

<sup>42</sup> 国際機関による国際調達やPMDAアジア医薬品・医療機器トレーニングセンター・海外事務所の活用を含む。

## 方向性

- ・ 基礎研究力の強みや近年の治験への取組を活かし、実用化を担う人材の育成・流動性向上や、リスクマネーの呼び込み等によるスタートアップや国際共同治験における資金面・制度面の課題解消を図る。
- ・ これにより、新たな創薬シーズの創出から実用化まで一気通貫で進める環境を整備し、需要が拡大する国内外市場(※1)の獲得につなげる「世界直行型」の開発を実現するとともに、人々の健康を支え、我が国の経済成長に貢献する。

我が国の強みである  
優れた基礎研究力への  
官民による長期的な先行投資

投資回収を通じ新たな研究開発に繋げる

日本発の創薬シーズの  
継続的な創出

一気通貫で社会実装化

【目指すべき姿】

### 【課題】

- ・ 実用化を担う人手不足
- ・ スタートアップ・国際共同治験の資金不足

### 【講じるべき施策】

- ・ **実用化を担う人材の育成・流動化**
- ・ **カーブアウト(※2)活用推進・スタートアップ等への投資呼込、製薬企業とのM&A支援等スタートアップ支援の強化**
- ・ **基礎研究力・治験実施体制の更なる強化**
- ・ **AMEDの大学等と製薬企業との橋渡し等による実用化の推進**
- ・ **AI・データ利活用による研究開発プロセスの高度化・効率化**
- ・ **革新的新薬のイノベーションの更なる評価の検討**

※2 カーブアウト：製薬企業等の創薬シーズを切り分け、外部資本の導入等により新会社等で実用化する取組。

「世界直行型」の開発  
→国内外市場の獲得

### 【目標】

- ・ 日米欧での同時承認
- ・ 我が国の医薬品市場の魅力度向上に向け、特許品の国内市場規模について、世界の成長に比肩する成長を目指す
- ・ 我が国製薬企業が国内外で獲得する特許品市場規模について、世界市場と同水準の成長の実現

※1 2020-2024年の特許品の世界市場（日本を除くG7）年平均成長率：9.6%

## 6年制学科卒（主に薬剤師育成）

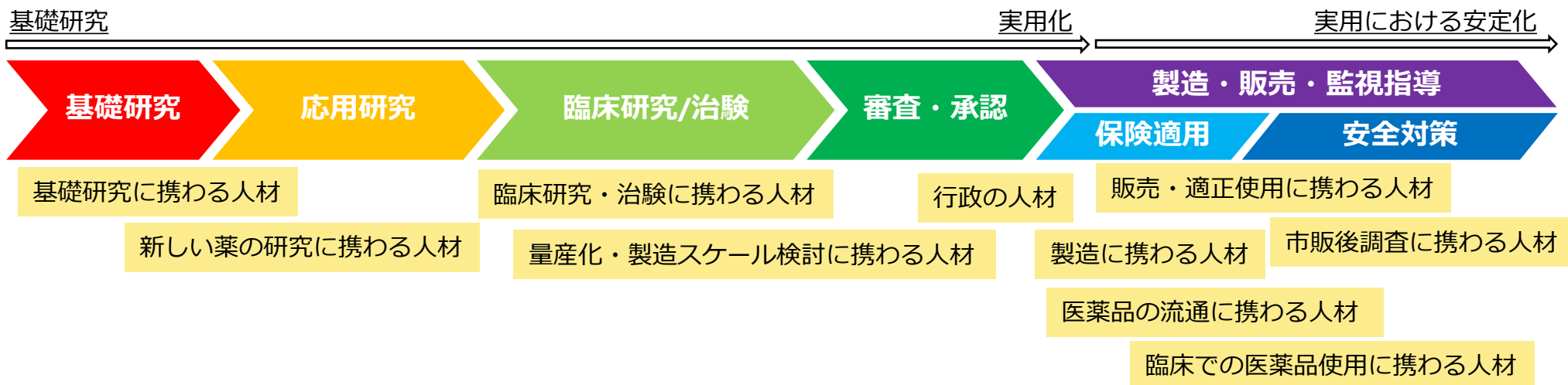
- 全体の82.8%が卒業後すぐに就職し、27.6%が保険薬局、21%が医療機関、18.1%がドラッグストアの調剤部門であった
- 大学院への進学者は全体の2.3%であり、博士課程修了者の就職先は企業の研究・開発もしくは研究機関・大学が多かった

## 4年制学科卒（主に研究者育成）

- 全体の76.9%が大学院に進学し、そのうち約30%が博士課程に進学していた
- 修士課程修了者の就職先は、企業の研究・開発、科学系企業等が多かった
- 博士課程修了者の就職先は、企業の研究・開発もしくは研究機関・大学が多かった

大学院進学者は創薬に資する企業の研究・開発への就職が多く、  
特に博士課程修了者は大学等の研究機関への就職が多い様子が伺える

# 創薬に関わる薬剤師キャリアについて



- ◆ 創薬に関わる薬剤師キャリアは、基礎研究から市販後調査まで多岐にわたる
- ◆ 創薬人材の輩出が求められており、創薬に資する研究者へのキャリアも重要ではないか
- ◆ 大学院への進学、特に博士課程への進学が、創薬に関わる各ステージを支える人材育成に繋がるのではないか
- ◆ 薬剤師のキャリア全体の中で、どこにフォーカスを当てて仕組みを考えていくのが良いか